

48:1 これらのことの後、ヨセフに「あなたの父上は病気です」と告げる者があったので、彼はそのふたりの子、マナセとエフライムを連れて行った。 48:2 ある人がヤコブに告げて、「あなたの子ヨセフがあなたのもとにおいでです」と言ったので、イスラエルは力をふりしぼって床にすわった。 48:3 ヤコブはヨセフに言った。「全能の神がカナンの地ルズで私に現れ、私を祝福して、 48:4 私に仰せられた。『わたしはあなたに多くの子を与えよう。あなたをふやし、あなたを多くの民のつどいとし、またこの地をあなたの後の子孫に与え、永久の所有としよう。』 48:5 今、私がエジプトに来る前に、エジプトの地で生まれたあなたのふたりの子は、私の子となる。エフライムとマナセはルベンやシメオンと同じように私の子にする。 48:6 しかしあとからあなたに生まれる子どもたちはあなたのものになる。しかし、彼らが家を継ぐ場合、彼らは、彼らの兄たちの名を名のらなければならない。 48:7 私のことを言えば、私がパダンから帰って来たとき、その途上カナンの地で、悲しいことに、ラケルが死んだ。そこからエフラテに行くには、なお道のりがあったが、私はエフラテ、すなわちベツレヘムへの道のその場所に彼女を葬った。」 48:8 イスラエルはヨセフの子らに気づいて言った。「これはだれか。」 48:9 ヨセフは父に答えた。「神がここで私に授けてくださった子どもです。」すると父は、「彼らを私のところに連れて来なさい。私は彼らを祝福しよう」と言った。 48:10 イスラエルの目は老齢のためにかすんでいて、見るができなかった。それでヨセフが彼らを父のところに近寄らせると、父は彼らに口づけし、彼らを抱いた。 48:11 イスラエルはヨセフに言った。「私はあなたの顔が見られようとは思わなかったのに、今こうして、神はあなたの子どもをも私に見させてくださった。」 48:12 ヨセフはヤコブのひざから彼らを引き寄せて、顔を地につけて、伏し拝んだ。 48:13 それからヨセフはふたりを、エフライムは自分の右手に取ってイスラエルの左手に向かわせ、マナセは自分の左手に取ってイスラエルの右手に向かわせて、彼に近寄らせた。 48:14 すると、イスラエルは、右手を伸ばして、弟であるエフライムの頭の上に置き、左手をマナセの頭の上に置いた。マナセが長子であるのに、彼は手を交差して置いたのである。 48:15 それから、ヨセフを祝福して言った。「私の先祖アブラハムとイサクが、その御前に歩んだ神。きょうのこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神。 48:16 すべてのわざわいから私を贖われた御使い。この子どもたちを祝福してください。私の名が先祖アブラハムとイサクの名とともに、彼らのうちとなえ続けられますように。また彼らが地のまなかで、豊かにふえますように。」 48:17 ヨセフは父が右手をエフライムの頭の上に置いたのを見て、それはまちがっていると思い、父の手をつかんで、それをエフライムの頭からマナセの頭へ移そうとした。 48:18 ヨセフは父に言った。「父上。そうではありません。こちらが長子なのですから、あなたの右の手を、こちらの頭に置いてください。」 48:19 しかし、父は拒んで言った。「わかっている。わが子よ。私にはわかっている。彼もまた一つの民となり、また大いなる者となるであろう。しかし弟は彼よりも大きくなり、その子孫は国々を満たすほど多くなるであろう。」 48:20 そして彼はその日、彼らを祝福して言った。「あなたがたによって、イスラエルは祝福のことばを述べる。『神があなたをエフライムやマナセのようになさるように。』」こうして、彼はエフライムをマナセの先にした。 48:21 イスラエルはヨセフに言った。「私は今、死のうとしている。しかし、神はあなたがたとともにおられ、あなたがたをあなたがたの先祖の地に帰してください。 48:22 私は、あなたの兄弟よりも、むしろあなたに、私が剣と弓とをもってエモリ人の手から取ったあのシェケムを与えよう。」

はじめに

さらっと読んだところでは、創世記 48 章はヤコブがヨセフの息子たちを祝福する話です。しかし、聖書のずっと先、ヘブル 11 : 21 を読むと、注目すべきことがわかります。

ヘブル 11:21 信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました。

ヘブル 11 章には、その「信仰」を知られた人々の名が列挙されています。

その中で、ヤコブの信仰について言及された唯一のことは、ヨセフの息子たちの祝福です。ですから、この章の最初から、テーマは「信仰」であることを私たちは理解する必要があります。ヤコブがヨセフの息子たちを祝福した出来事について書かれてはいますが、この祝福するという行為によって、ヤコブは大いなる「信仰」の持ち主だと言われたのです。では、48章を3つに分けて学んでいきましょう。

1. ヤコブがヨセフの息子たちを養子にする。(3-13節)

本文中で、ヤコブはほぼ147歳で病気であることがわかります。もうそれほど先は長くない状態です。

ヨセフは、ふたりの息子たち、長男マナセと次男エフライムを連れて父を訪ねました。

ヤコブはヨセフと孫たちを見ると、やっとのことでベッドの上に座りました。

そしてまず、昔カナンの地ルズで神がヤコブにあらわれたときのことをヨセフに伝えました。

ルズは、ベテルの以前の地名です。そこは、ヤコブにとって重要なふたつの出来事が起こった場所です。

では、そのひとつめの出来事について記された創世記28:10-22を読みましょう。

創世記28:10-22

28:10 ヤコブはベエル・シェバを立って、ハランへと旅立った。28:11 ある所に着いたとき、ちょうど日が沈んだので、そこで一夜を明かすことにした。彼はその所の石の一つを取り、それを枕にして、その場所で横になった。28:12 そのうちに、彼は夢を見た。見よ。一つのはしごが地に向けて立てられている。その頂は天に届き、見よ、神の使いたちが、そのはしごを上り下りしている。28:13 そして、見よ。【主】が彼のかたわらに立っておられた。そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。28:14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。28:15 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」28:16 ヤコブは眠りからさめて、「まことに【主】がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった」と言った。28:17 彼は恐れおののいて、また言った。「この場所は、なんとおそれおおいことだろう。こここそ神の家にはほかない。ここは天の門だ。」28:18 翌朝早く、ヤコブは自分が枕にした石を取り、それを石の柱として立て、その上に油をそそいだ。28:19 そして、その場所の名をベテルと呼んだ。しかし、その町の名は、以前はルズであった。28:20 それからヤコブは誓願を立てて言った。「神が私とともにおられ、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る着物を賜り、28:21 無事に父の家に帰らせてくださり、こうして【主】が私の神となられるなら、28:22 石の柱として立てたこの石は神の家となり、すべてあなたが私に賜る物の十分の一を必ずささげます。」

この25年後に起こった出来事について、創世記35:9-15を読みましょう。

創世記35:9-15

35:9 こうしてヤコブがパダン・アラムから帰って来たとき、神は再び彼に現れ、彼を祝福された。35:10 神は彼に仰せられた。「あなたの名はヤコブであるが、あなたの名は、もう、ヤコブと呼んではならない。あなたの名はイスラエルでなければならない。」それで彼は自分の名をイスラエルと呼んだ。35:11 神はまた彼に仰せられた。「わたしは全能の神である。生めよ。ふえよ。一つの国民、諸国の民のつどいが、あなたから出て、王たちがあなたの腰から出る。35:12 わたしはアブラハムとイサクに与えた地を、あなたに与え、あなたの後の子孫にもその地を与えよう。」35:13 神は彼に語られたその所で、彼を離れて上られた。35:14 ヤコブは、神が彼に語られたその場所に柱、すなわち、石の柱を立て、その上に注ぎのぶどう酒を注ぎ、またその上に油をそそいだ。35:15 ヤコブは、神が自分と語られたその所をベテルと名づけた。

このふたつの出来事をヤコブが思い起こしたのは、子孫に関する約束を神からいただいたのはヤコブであるとヨセフに念押しするためです。
それで、誰が祝福を受けるかを定める権利はヤコブにあるというわけです。
ヤコブは、神がこれらの約束を成就してくださると信じていました。
彼には、信仰によって、自分の選んだ人に祝福を受ける権利と力がありました。
では、実際の養子縁組についてです。
5節をご覧ください。

48:5 今、私がエジプトに来る前に、エジプトの地で生まれたあなたのふたりの子は、私の子となる。エフライムとマナセはルベンやシメオンと同じように私の子にする。

原語のヘブル語では、次のように記されています。
「彼らは私にとってルベンとシメオンのようになる。」
ヤコブは、このふたりの男の子が孫ではなく息子となると言っているのです。
彼らがルベンとシメオンに取って代わるということです。
これは奇妙な話です。なぜヤコブはそんなことをしたのでしょうか。
その答えは、歴代誌第一 5 : 1-2 と創世記 35 : 22 を読むとわかります。

歴代誌第一 5 : 1-2

5:1 イスラエルの長子ルベンの子孫——彼は長子であったが、父の寝床を汚したことにより、その長子の権利はイスラエルの子ヨセフの子に与えられた。系図の記載は長子の権利に従って行うものではない。5:2 ユダは彼の兄弟たちにまさる者となり、君たる者も彼から出るのであるが、長子の権利はヨセフに帰したからである——

創世記 35 : 22

35:22 イスラエルがその地に住んでいたころ、ルベンは父のそばめビルハのところに行って、これと寝た。イスラエルはこのことを聞いた。さて、ヤコブの子は十二人であった。

これについては、後ほど詳しく見ていくことにして、次に話を進めます。
ヤコブは、自分の決断についてヨセフから質問されることを予測していました。他の子どもたちにも影響が及ぶからです。
ヤコブはその質問を想定し、6節でその問いに答えました。
6節には、ヨセフの他の子どもたちはヨセフの子となるが、彼らはエフライム族とマナセ族に属するようになりますとあります。
7節で、ヤコブは妻ラケルの死を思い起こしています。これはヤコブにとってもヨセフにとってもつらい出来事でした。
ヨセフはラケルのひとりめの子だったからです。
ラケルの血筋はヨセフを通して受け継がれますが、ヤコブがヨセフのふたりの息子を長男として迎え入れたことで、直系として受け継がれます。

では、8-13節を見ていきましょう。
聖書学者の多くは、ヤコブとヨセフ、およびそのふたりの息子たちのやりとりの詳細は、当時の正式な養子縁組の手順に似ていると言います。
8-13節から、ヨセフが父ヤコブに息子たちを正式に引き渡したととらえることができます。
これは、神によって与えられた契約を受け継ぐためです。
その契約はもともと、アブラハムとその子孫に与えられたものです。

2. ヨセフのふたりの息子たちをヤコブが祝福する。(14-20節)

ヤコブが実際にヨセフのふたりの息子たちを祝福する場面です。

これは、さらなる問題の種のように見えます。ヨセフだけでなく、長男の権利や責任に関するアジア人の感覚でも、おかしいと感じます。

まず理解しておくべきなのは、当時の長男には特別な権利や責任があったことです。

長男は直系血族であり、一家の代表でした。

ですから、それまでマナセは長男としての特権の中で育ってきました。

ヨセフは、跡継ぎとして長男を特別に教育していたことでしょう。

次に、右手の意味を理解しなければなりません。

右手で誰かを祝福するとは、その人に力と権威を与えることを意味しました。

聖書は、イエスが神の右の座におられると語ります。(ルカ 22 : 69、マルコ 16 : 19)

イザヤは、神が私たちの右手を握られると語ります。(イザヤ 41 : 13)

ですから、ヤコブが次男エフライムに右手を置くことを選んだのは、当時の文化においては間違っていました。

ヤコブは、その右手を長男マナセにおくべきです。

では、なぜヤコブはそうしたのでしょ

うか。なぜヤコブは当時の文化で間違っているとされていることをしたのでしょ

うか。19節を読めばその答えがわかります。

48:19 しかし、父は拒んで言った。「わかっている。わが子よ。私にはわかっている。彼もまた一つの民となり、また大いなる者となるであろう。しかし弟は彼よりも大きくなり、その子孫は国々を満たすほど多くなるであろう。」

ヤコブは次男エフライムにさらなる祝福があると感じたからです。

ヘブル人への手紙によると、これは、ヤコブの大いなる「信仰」の行為として記録されています。

ヤコブは、次男に祝福が与えられる将来について知りませんでした。神はご存知でした。

ですから、ヤコブはここで信仰によって行動していたのです。神がヤコブに示されたことを信じていたのです。

ヤコブは、当時の文化や自分の知恵に頼らず、神の語られたことを信頼しました。

それこそ「信仰」です。

信仰とは、神のことばを信頼することです。それが自分の知恵や文化と相反することであっても、信頼するのです。

3. ヨセフの信仰 (21-22 節)

ふたりの息子を養子にするという父ヤコブの計画に同意するには、ヨセフは神を信頼しなければなりません。

人間的に考えれば、それはありえないことです。

ヨセフが息子たちを見下された羊飼いの一員にしてしまえば、彼らにとって将来の可能性はすべて奪われます。

ヨセフはエジプトで第二の権力者であったことを忘れないでください。

彼はその地位から、エジプト人として育てた息子たちにどんな職でも与えることができたでしょう。けれども、ゴシェンの羊飼いの一員になれば、別の話です。

しかし、ヨセフは神の約束について父に同意しました。

ヨセフは、神が大いなる民族を生み出され、いずれその民族をカナンに地へ帰してくださると納得しました。

エジプトで最高の特権階級にいたヨセフにとって、これは大きな信仰の要ることでした。

22 節で、ヨセフは「信仰」によって父からの贈り物を受け取りました。

その贈り物とは、カナンの地の割り当ての追加でした。

つまり、ヨセフは他の兄弟より多く割り当て地を得るということです。

誰かに贈り物をもらうとき、それはたいてい目に見えるものです。

お金や商品券であったとしても、プレゼントそのものを手に入れる手段となります。

しかしヨセフの場合、この贈り物をもらえたという証は何もありませんでした。もちろん、この贈り物を与えるという父親の約束は信じたでしょうが、それをいつか受け取るためには、その土地に帰らなければなりません。ですから、ヨセフも、神がいつかカナン之地へと彼らを連れ帰ってくださるという約束を信じていたに違いありません。実際には400年以上も後のことですから、ヨセフはこの出来事をどこかに記録していたはずで、その証拠に、22節が存在します。ですから、どこかに記録されていたのでしょ

適用

この48章に示された明確な教えがふたつあります。それは「信仰」と「養子」についてです。まず、「信仰」について話しましょう。今日の聖書個所の文脈では、「信仰」は、民族の祝福と土地に関する神の約束を信じることでした。この「信仰」ということばを聖書が教えるとおりに理解するのが大切です。信仰は、イエス・キリストが何よりも大切だとみなされたことです。マタイ15:21-28に登場する異邦人の女には、忍耐する力がありました。マタイ8:5-13に登場する兵士には、謙虚さがありました。マルコ10:46-52に登場する盲目の男性には、真摯な思いがありました。けれども、イエスは彼らの信仰を見て、その信仰に報われました。信仰は、ペテロ第二1:5-7に挙げられる霊的な品性の土台です。

ペテロ第二 1:5-7

1:5 こういうわけですから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。

では、聖書の教える信仰とはどのようなものでしょう。聖書の教える信仰を持つために、次の3つのことが必要です。

1. 知識

詩篇9:10 御名を知る者はあなたに拠り頼みます。【主】よ。あなたはあなたを尋ね求める者をお見捨てになりませんでした。

ローマ10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

信仰とは、根拠もなく何かを信じることではありません。聖書の教える信仰は、神のみことばである聖書という何よりの根拠に基づいています。私たちの置かれた時代や文化に左右されません。

2. 同意

これは、心から信じるという意味です。

聖書の知識があることと、その内容を心から信じることは別です。

先週の学びで取り上げた、マルコ10:17-22に登場する裕福な若者は、十戒をよく知っていましたが、富を貧しい人たちに分け与えてイエスに従えばよりよい人生があることを心から信じませんでした。

聖書が教える本物の信仰を持つには、心の奥底が触れられていなければなりません。

3. 充当

聖書の教える真の信仰の3つめの側面は、自分が知って心から信じていることを実生活に当てはめることです。

ヨハネ 1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

贈り物は、もらった人が受け取って初めて贈り物となります。贈り主のことも、プレゼントをもらったことも知っていながら、受け取りを拒否することもできます。

イエスは、この部分で人々を試されました。

ヨハネ 8 : 30-31 を読みましょう。

ヨハネ 8 : 30-31

8:30 イエスがこれらのことを話しておられると、多くの者がイエスを信じた。 8:31 そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。

イエスは人々の心をご存知でした。そして、本物の信仰は行動にあらわれるということもご存知でした。

ヤコブ 2 : 14-18

2:14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがなければ、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるのでしょうか。

2:15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、 2:16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。 2:17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。 2:18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」

自分は新生したクリスチャンだと言うなら、イエス・キリストと聖書の神、そして救いのメッセージについていつかの時点で理解したということです。

そして、何らかのかたちでその知識が心に届いたということです。

自らの罪を示され、イエスに赦しを求めて、イエスの赦しと愛を受け入れたということです。

まだクリスチャンでないという人は、先ほど挙げた信仰に必要なものの何かが欠けているということでしょう。

知識があっても、心の奥底まで届いていないのでしょうか。

それなら、神が心に触れてくださるよう祈ってみましょう。

心では納得しているけれど、信仰の一步を踏み出して、イエス・キリストを心に迎え入れていないのでしょうか。

それなら、今日そうしてはどうでしょう。

礼拝後、後方の「Lift」の看板のある場所までおいでください。そして、イエス・キリストに罪の赦しを求め、心の中に来てくださるよう、係の人と一緒に祈りましょう。

神は人間に贈り物をしたいと願っておられます。それを拒否しているのは私たち人間です。そのことを忘れないでください。

すべてのクリスチャンの課題は、「信仰」とどまることです。

これは、神の栄光をすでに味わったことのある人々への課題です。

私たちは常に、信仰が成長しつづけるように努めなければなりません。それには、小さな信仰の一步を日々踏み出すことが必要です。聖書は、主イエス・キリストの恵みと知識において成長するようにと教えます。これには信仰が必要です。

ふたつめの教えは、「養子」についてです。

ヤコブは、孫を自分の子として養子に迎えようとしてしました。その子らは母の血によればエジプト人で、おそらくアブラハム、イサム、ヤコブに対して神がなされた約束についてよくわかっていなかったでしょう。その約束とは、神が彼らを大いなる国民にするというものでした。

英国の法律では、子どもがいったんある家庭に養子として迎え入れられると、その子は実子と同じ権利を得ます。

つまり、子が養子として家族に迎え入れられたなら、実子と養子の区別はないということです。ヤコブにとって、ヨセフのふたりの息子たちが神の家族の一部となることは重要でした。それは、土地と民族に関する約束の相続者となるためです。

私たちはクリスチャンになると、神の家族の一員として「養子」のように迎え入れられます。これは、私たちが神の子としての特権を、神の家族に属するすべての人々と共有するということです。

神は、イエス・キリストを信じる人々をご自身の養子として迎え入れてくださいます。

エペソ 1:3-8

1:3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。 **1:4** すなわち、神は私たちが世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。

1:5 神は、みむねとみこころのままに、私たちがイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。 **1:6** それは、神がその愛する方において私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。 **1:7** この方において私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。 **1:8** この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、

私たちは、私たちに関わる神の約束のすべてを自分のものにできます。

すべての約束を自分のものにするには、一生かかるかもしれませんが、今日から始めてはいかがでしょう。

アーメン。